

国立大学法人宮崎大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

宮崎大学は、人間性・社会性・国際性を備えた専門職業人を養成し、有為の人材を社会に送り出すこと、国際的に通用する研究活動を積極的に行い、その成果を大学の教育に反映させるとともに、地域をはじめ広く社会の発展に役立てることを目標としている。第2期中期目標期間においては、共通教育、専門教育及び大学院教育を通して、教育目標に掲げる「人間性」、「社会性・国際性」そして「専門性」を培う教育を実施し、有為の人材を育成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、国際的に通用する課題解決能力を持つ専門職業人を育成するため、成績評価指標により学習到達度を把握する方法の検討、新入生及び卒業年次生を対象とする学習調査の実施、留学英語対策プログラムの開講など、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、地域社会問題の解決や人材の提供を通じた地域貢献を目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成24年度においては、口蹄疫防疫対策上級専門家育成事業に5か国8名の研修員を受け入れているほか、産業動物従事者向けの「統計学入門講座」を毎月開催している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 教育研究組織の見直しを進め、工学部を6学科体制から7学科体制に改組するとともに、工学部及び工学研究科の教員組織を見直して工学教育研究部を設置するなど、学科の壁を越えた横断的で柔軟な教育研究体制を整備している。
- 医学部検収センターに専任職員を3名配置し納品確認体制の充実を図るとともに、医学部附属病院に診療報酬請求事務の資格を持った専門職員を2名配置し監査・指導が適切に行われるようにしたほか、メンタル管理等の体制強化のため安全衛生保健管理室のパートタイム看護師を有期契約職員として採用するなど、事務系職員の適正配置を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- (①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 附属動物病院に研修獣医師を雇用したことにより、動物治療収入は 5,755 万円（対前年度比 807 万円増）となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- (①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 教員の活動を活性化し大学の教育研究等の向上を図るため、教員個人の活動状況を点検・評価するとともに、医学部、産学・地域連携センター、フロンティア科学実験総合センター及び国際連携センターでは過去 3 年間の活動実績に対する総合評価を実施し、組織単位での評価結果をウェブサイトに掲載している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- (①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 臨床研究に関する倫理指針違反があったことから、職員への教育研修の徹底や、研究に対する審査体制の強化など、組織としての確実な再発防止に取り組むことが求められる。

- 教員が大学所有の成果有体物（実習用標本）を許可なく撮影し出版物に掲載していた事例があったことから、研究倫理教育の強化を図るなど、再発防止に向けた組織的な取組を行うことが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、臨床研究に関する倫理指針違反があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学士課程教育検討専門委員会において、各学部・共通教育で開設している授業科目を分類しカリキュラム・マトリックスを作成するとともに、各カリキュラム・授業内容の調査・分析を行い成績評価指標により学習到達度を把握する方法を検討している。
- 新入生及び卒業年次生を対象とする学習調査を実施し、調査結果をファカルティ・ディベロップメント研修会で報告するとともに、教育改善の提言を行っている。
- 複眼的視野を持つ国際医療人の育成を目指し、専門的かつ実践的な医学英語教育を実施するとともに、単位の取得が可能な海外派遣（19名）を実施しているほか、留学や海外実習を希望する学生を対象に、TOEFL対策講座と留学英語基礎講座で構成される留学英語対策プログラムを開講している。
- 農学部において、「国際的適正農業規範（International Good Agricultural Practice）対応の食料管理専門職業人の養成」事業を展開し、農場等への指導を行うことができる指導員資格を、平成24年度は学生37名が在学中に認定されている。
- 各学部副学部長等による「障がい学生修学支援連絡会」を新設し、要支援学生に関する情報を共有するとともに、修学・生活支援の推進、連携強化に取り組んでいる。
- 獣医学教育の連携に関する協定を大阪府立大学及び東京大学との間で締結するとともに、「地域の医療現場と協働したサービス・イノベーション人材の育成」を久留米大学及び北陸先端科学技術大学院大学と連携して取り組むなど、大学間連携を進めている。
- 産業動物防疫リサーチセンターは、口蹄疫復興対策ファンド事業を推進し、国内外から24名の客員研究員を委嘱し、産業動物の取扱い及び防疫に関する研究活動や教育プログラムの開発を行っている。
- 工学部では、高校教員と大学教員とのネットワークによる定例懇談・連絡会を実施して教育内容・方法を改善する協議や研修を行い、また、高校生を対象とした「みやざき元気体験プログラム：太陽光発電について学ぶ」などの公開講座・実験等を通じて理科教育の充実と「理科大好き青少年」の育成に努めている。
- アフガニスタンのインフラ及び農業・農村開発に資することを目的に、同国の行政

官等を研究生として3名（平成23年度1名）受入れ研修を行うなど、国際協力事業を展開している。

附属病院関係

（教育・研究面）

- 足腰の悪い高齢者を減らすことやロコモティブシンドロームを認知している人を増やすことを目指して、宮崎市・近郊在住の元気で活動する高齢者を対象に運動機能評価やロコモトレニングを3か月間実施しているほか、県内のスポーツクラブ5か所でのメディカルチェックや週1回のロコモ予防教室を実施するなど、先進県として「ロコモロール」事業を推進している。

（診療面）

- 県内の救急医療体制の充実に貢献するため、医師14名、看護師47名（4対1看護体制）を配置した救命救急センターを設置するとともに、ドクターヘリの運航を開始するなど、3次救急医療機関として高度な医療を提供している。

（運営面）

- 臨床倫理部、臨床倫理委員会を設置し、日々の診療における臨床倫理に関する検討を組織的に行うとともに、院内全部署の病棟医長、外来医長、看護師長等で構成する「病院連絡会議」を毎月開催し、診療現場の課題や意見を検討・集約し、具体的なアクションにつなげている。
- 附属病院における財務運営費について、財務諸表上の附属病院セグメント（損益ベース）と事業報告書上の収支の状況（キャッシュベース）、それぞれの観点から、債務償還を含めた経営の実態、翌期以降将来に向けた人的投資、設備投資ができる予算があるのかなど、運営上の課題について今後十分な説明責任を果たすべきである。